

◎本ニュースレターは、木曽三川流域におけるエコロジカル・ネットワーク形成に関連する地域の取り組み情報を発信するものです◎

コロナ禍が続く中、今年も応援団交流会「エコネットカフェ」を昨年度と同様にオンラインで開催しました。ご協力・ご参加された皆様ありがとうございました。また参加できなかった方も、今号で少しでも雰囲気を感じていただければと思います。

■2022年1月23日(日)〔WEB・サテライト会場(大垣市情報工房)〕

第4回エコネット応援団交流会 「エコネットカフェ・オンライン2021」を 開催しました!



▲サテライト会場では水環境もやい研究所さんとヒダサンショウウオ研究会さんが参加しました。



▲オンライン会議の様子。ディスカッションでは、コロナ禍での活動の仕方や交流・連携の方法について議論しました。

令和3年度も応援団の皆様の活動発表や交流の場として、エコネットカフェを開催しました。

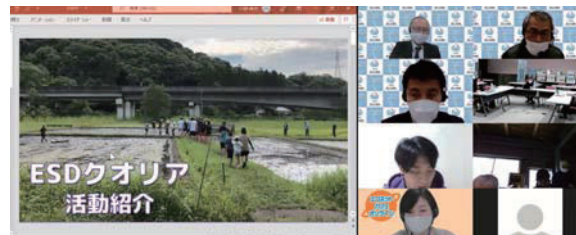
平成30年度から始めて第4回目となる今回は、コロナ禍に配慮して、Zoomを利用したオンライン会議や、ネット環境が無くても参加できるサテライト会場を用意し、約50名の方にご参加頂きました。また、皆様の研究発表や活動報告のポスターを自由に見られるよう、ネット上に展示会場を設け、7団体、計11点の資料をご提供頂きました。

交流会では、愛知県立一宮高等学校生物部さんよりイタセンバラ保護啓発活動やタナゴ属の人工産卵装置に関する研究の紹介、岐阜大学ESDクオリアさんより環境教育活動や金華山の麓にある達目洞(だちぼくぼら)での環境保全活動を紹介していただきました。事務局からは木曽川で撮影した360°カメラの映像やイタセンバラ・ハリヨ生息地を撮影した水中映像を紹介しました。水環境もやい研究所の川合様からは、氾濫原・湧水帯のルーツについてのこれまでの調査や研究結果の話題提供がありました。



▲エコネットカフェと併設して、2週間限定で公開されたWEB展示会の資料。WEB上での閲覧はもちろんのこと、ご意見などを書き込めるようにしました。(写真左:愛知県立一宮高等学校のイタセンバラ保護啓発ポスター、写真右:水中映像)

展示会参加の皆様:ニホンウナギ生態系ネットワーク推進部会/ヒダサンショウウオ研究会/愛知県環境局環境政策部 自然環境課/愛知県立一宮高等学校/羽島市 教育委員会 生涯学習課/岐阜県立岐阜高等学校 自然科学部生物班/岐阜県立大垣東高等学校



▲応援団の皆様から代表して一宮高等学校生物部さんと岐阜大学 ESDクオリアさんが日頃の活動や研究の発表を行いました。

一宮高校の研究が最優秀賞を受賞しました!

東海学院大学主催「第6回東海地区理科研究発表会」で、愛知県立一宮高等学校 生物部 イタセンバラ班による研究「タナゴ属の人工的産卵装置の開発と産卵促進」が『最優秀賞』を受賞しました! おめでとうございます!

受賞した研究は、エコネットカフェでも発表していただきました。

「東海地区 理科研究発表会」とは?

東海地区の高等学校に在籍する高校生を対象とした理科分野の自由研究発表の場を設け、理科分野に興味関心のある高校生同士の交流を目的としています。



◀エコネットカフェでの発表の様子

愛知県立一宮高等学校では、イタセンバラの産卵床となる二枚貝の負担を減らし、イタセンバラを増やすことができるよう、人工的に産卵を誘発する装置の開発に取り組んでいます。

「イタセンパラの勉強会」が開催されました

毎年恒例のイタセンパラの勉強会(木曾川水系イタセンパラ保護協議会主催)が令和4年1月30日にオンライン会議にて開催されました。第12回目となる今年は、木曾三川と同じくイタセンパラの保全に取り組んでいる富山県氷見市の教育委員会の方をゲストに迎え、九州や北海道といった遠方からもご参加頂くなど、地域だけでなく全国各地のみなさんと交流する機会となりました。

はじめに、木曾川水系におけるイタセンパラ保護の活動について紹介があり(環境省中部地方環境事務所野生生物課)、その後、「世界淡水魚園水族館アクア・トトぎふ」の池谷館長から域外保全(絶滅危惧種の市域・繁殖等)の取り組みのご説明や、国土交通省木曾川河川事務所より木曾川の環境整備、環境教育の活動についてお話がありました。

また、地域における普及啓発の取り組みとして、木曾三川流域エコネット応援団にも参加されている愛知県立一宮高等学校生物部と一宮市立起小学校から活動紹介があり、富山県氷見市教育委員会から氷見市における普及啓発の取り組みについてお話がありました。

参加者の皆さんからは、「こうした活動を続けていくことが重要と思います」、「イタセンパラの保護増殖事業には一般の人でもボランティアなどで関わることはできるのでしょうか」など、イタセンパラ保護への関心が高まっていることを感じさせる意見や質問が多く寄せられました。



イタセンパラは
ここで"見る"ことが"できる"よ!

環境省のイタセンパラ保護事業において、系統保存等を目的に保護増殖された個体の一部が、一宮市・羽島市を中心に、小中高等学校・民間企業・自治体施設などで飼育されています。絶滅の危機に瀕するイタセンパラ保護の普及啓発等を目的とした取り組みで、一部施設の水槽は一般公開されています。

イタセンパラ一般公開中の施設等

(2022年1月時点)

- ◎一宮市尾西歴史民俗資料館(一宮市起字下町 211)
- ◎一宮市役所(一宮市本町 2-5-6)
- ◎木曾川上流河川事務所(岐阜市忠節町 5-1)
- ◎国営木曾三川公園 自然発見館(各務原市川島笠田町)
- ◎羽島市立図書館(羽島市竹鼻町丸の内 6-2)
- ◎尾西信用金庫本店(一宮市尾西 1-4-3)
- ◎三井住友信託銀行一宮支店(一宮市栄 3-7-15)

※見学できるのは各施設・店舗の営業時間中に限ります(無料)。
イタセンパラの状態によっては展示終了となっている場合もありますので、予めご了承ください。

木曾三川流域おさかなコラム vol.3

なんじゃもんじゃなんじゃもんじゃ ～ヒトツバタゴ～

じゃない

“なんじゃもんじゃ”とは、『なんだかよくわからないけれど立派な植物』のことを呼ぶ時に使う言葉だそうです。そして、そのなんじゃもんじゃを別名に持つ、キング・オブ・なんだかよくわからない植物が木曾川流域(と長崎県の対馬)に自生しています。正式な種名は「ヒトツバタゴ」と言い、その自生地は天然記念物に指定されるほど珍しい木だそうです。20mを超える大型の樹木で、5月頃に白く大きな花をつけます。一斉に花が咲くと、モクモクとした木の全体に雪が積もったような、まるでミルクをかけた宇治金時のような見た目になり、とても可愛らしいです。ただし、花は非常に繊細で風など吹けば方々に飛んでいってしまい、見ごろは10日ほどしか続かないとのこと。

このヒトツバタゴが“なんじゃもんじゃ”と呼ばれるようになった理由を調べてみたところ、諸説あるものの、いずれも『なんだかよくわからなかったから』という身も蓋もないようなお話でした。少なくとも江戸の時代には“なんじゃもんじゃ”と呼ばれていたそうです。過去にはなんだかよくわからない木と名付けられ、現代にはなぜ分らなかったかも分からなくなってしまった。調べれば調べるほど頭になんじゃもんじゃが浮かんでくるこの感覚、まさに“なんじゃもんじゃ”にふさわしい貫禄と言えましょう。

しかし謎は謎として、ヒトツバタゴは自生地のほかにも各地に移植され、様々なところで目にすることができます。岐阜県の県道66号線などは「東濃なんじゃもんじゃ街道」と名付けられるほどたくさん植樹されているそうです。知らず知らずのうちに目にしたことがあるような気がしますが、

なんだかよくわからない、まさになんじゃもんじゃの木としてスルーしていたのでしょう。なんじゃもんじゃ知って調べてなんじゃもんじゃであることを確かめる。なんだか訳が分からなくなってしまいました。それもまたなんじゃもんじゃの魅力なのではないでしょうか。なんじゃもんじゃなんじゃもんじゃ。どこまでも不思議な存在です。



facebookページはこちらからアクセス!

<https://www.facebook.com/kisosanseneconet/>



掲載用情報を募集しています!

事務局では、このニュースレターや facebook ページで、木曾三川流域におけるエコロジカル・ネットワーク形成に関連する地域の取り組み情報を発信しています。生物多様性の保全や生きものを活用した地域づくりなど、応援団の皆さんからの投稿・情報提供を随時募集中です。下記お問い合わせ先まで、お気軽に情報をお寄せください。(なお、紙面の都合等で取材・掲載できない場合もありますこと、予めご了承ください。)



木曾三川流域生態系ネットワーク推進協議会(事務局:国土交通省木曾川上流河川事務所)は、川とともに育まれてきた流域の自然や文化を保全・活用し、地域の魅力を向上させるとともに、人と自然・人と人との絆を深めることを目的とし、流域の市民団体・自治体・有識者・河川管理者等によって、平成26年度に設立されました。

本協議会では、木曾三川流域において、自然環境を保全・再生・創出してつなげる「生態系ネットワーク形成」に関連する活動を行う(または賛同する)、地域のさまざまな団体等に参加していただく「木曾三川流域エコネット応援団」を結成しています。応援団の皆さんの活動に関する情報共有等を図ることにより、地域の交流・協働を促進し、取り組みのさらなる発展を目指していきます。

「木曾三川流域生態系ネットワーク」ホームページ <<https://www.cbr.mlit.go.jp/kisojo/econet/index.html>>

木曾三川流域エコネット応援団 事務局:国土交通省 木曾川上流河川事務所 調査課(岐阜県岐阜市忠節町 5-1)

【問い合わせ先(R3事務局窓口)】cbr-kisojo-choosa@mlit.go.jp / tel 058-251-1125 / fax 058-251-1150

